



第20号
2021.5.20

シニアの学び舎

レイカディア大学だより 米原校

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています。

令和3年10月入学

学生募集特集

入学願書受付：
令和3年6月1日（火）
～8月10日（火）

60歳以降の生活スタイルに関心のある方へ

「60代、70代、80代のシニアの学び舎」である滋賀県レイカディア大学にどうぞ注目ください。この大学だより第20号では米原校3学科卒業生の経験や声をもとにその魅力を紹介しています。

レイカディア大学は、滋賀県が提唱した「高齢者が積極的に意欲をもって社会へ参画し、地域の担い手となるべく、知識と教養と技術を習得する学校」として始まり、既に40年以上の歴史があります。

関心をもたれた方は、各市町・支所・公民館・図書館など公共施設に置かれている第43期学生募集案内を手にとってより詳細な情報を得てください。もちろん、「レイカディア大学」でネット検索しても同様に情報入手できます。

次の公開講座・学科見学会・説明会もありますので有効活用され、自分に合った学科を見出されることをおすすめします。



米原校アクセス

米原駅より徒歩
7分、第1駐車場
80台、第2
駐車場280台

【米原校 公開講座・大学説明会】

県立文化産業交流会館 小劇場（米原市下多良 2-137）

申込番号	公開日	時間	内容（予定）	大学説明会
M-1	6月3日（木）	13:00～15:00	想像力を高めて「もしも」に備える	15:10～16:00
M-2	6月10日（木）	10:00～12:00	福祉と芸術のあわいから生まれるもの	12:10～13:00
M-3	7月8日（木）	10:00～12:00	認知症の予防と理解	12:10～13:00

【米原校 学科見学会・学科説明会】

学科見学会 10:30～11:00 学科説明会 11:00～11:45

申込番号	学科見学日	学科	テーマ（予定）
M-4	5月12日（水）	園芸	春の家庭菜園 種まき・植え付け
M-5	6月1日（火）		樹木病害虫の診断と防除
M-6	6月22日（火）		盆栽の育て方と増やし方
M-7	6月8日（火）	文化 北近江	卒業生による学科説明会（両日とも同一内容）※学科リニューアル（講師等）予定
M-8	7月14日（水）		
M-9	5月21日（金）	健康づくり	健康と住まい「過ごしやすい住環境とは」
M-10	6月9日（水）		健康と食・栄養2 口腔ケア
M-11	7月9日（金）		地域における健康づくりへのアプローチ

【受講場所、申込先、問い合わせ先】

滋賀県レイカディア大学米原校

（県立文化産業交流会館内）

TEL. FAX : 0749-52-5110

メール : lacadi-mail@ex.bw.dream.jp

北近江文化学科 地域の歴史や文化を訪ねる！

レイカディア
麗花さんと貞也さんの

「レイカディア大学」ってナニ？

麗花「あんなあ、友達の福永さん、退職してから
レイカディア大学いうところに行ってるんやて」

貞也「そのレイカディア大学って、どこにあるの
や？」

麗花「米原の文化産業交流会館にあるんやて」

貞也「へー、毎日、米原までかよってはるんか？」

麗花「それがな、週に1度ぐらいあって、朝10時
から午後3時までやて」

貞也「それで、何を勉強してはるのや？」

麗花「うん、『北近江文化学科』いうて、滋賀県の
歴史や文化を勉強してはるのやて」

貞也「滋賀県の歴史や文化か。おもしろそうやなあ」

麗花「小谷城や安土城・彦根城へ登って城づくりの
工夫や歴史について先生に教えてもらうそう
やで。それから、滋賀県にゆかりのある小説や
俳句・和歌を読んだり、紙芝居の歴史を学んだり
紙芝居を作ったりするんやて」

貞也「へーえ、退職しても充実した毎日を過ごして
はるんやね」

麗花「それにな、一緒のクラスになった人との交流
が楽しいそうや。いろんな地域から違う仕事を
していた人が集まっているので、今までの肩書
をはずして新しい友だちができて新鮮で楽し
いそうやで」

貞也「新しい友だちかあ。ワクワクするなあ」

麗花「今年の募集は6月からで、授業は10月から
始まるそうやで。一緒に入学せえへんか？『園
芸学科』と『健康づくり学科』もあるそうやで」

貞也「そうやな、若返って学生生活も悪くないなあ。
チャレンジしようか」



【小谷城に登り、現地で
中井均先生(左端)から
教えていただく】

「城郭探訪」「民具・昔の生活を探る」 やはり、実物や現地で学ぶことがいちばん

城郭研究のスペシャリストで城郭に関する多くの
著書を執筆しておられる滋賀県立大学教授（現名誉
教授）の中井均先生の案内で、滋賀県の代表的な城
「小谷城」「安土城」「彦根城」に登り、それぞれの
城郭の特徴や歴史について学びました。

また、滋賀民俗学会理事の粕淵宏昭先生には「民
俗学とは・その楽しさ」について学びました。江戸
時代の「農書」に描かれた農業の方法や農具から、
その時代の工夫や移り変わり、そして今に至る人々
の知恵を読み取ることを教えていただきました。伊
吹山文化資料館・滋賀大学経済学部史料館を訪ね、唐
箕・むしろ織機など昔懐かしい農具や、算盤・道中提
灯など近江商人の歴史にも触れてきました。先生は「お
もしろい」「なんでやろ」という姿勢で「人間の工夫」
を学ぶことが「民俗学」では大切だと強調されました。

世界でひとつだけの紙芝居をつくる！！

坂早百合先生の「紙芝居の作成」の講座では、昔
懐かしい紙芝居の変遷を学んだり、各自が好みの題
材を選び、自分で絵を描き台詞を考えて紙芝居を作
ります。苦労もありますが、その分、喜びもひとし
おで、卒業してからは地域でのボランティア活動で
上演しています。



【粕淵先生(右から三人
目)から昔の写真につい
て説明を聞く】



【福祉施設を訪問して紙
芝居を上演する卒業生】

なぜ入学したのですか？

私たちは、60歳を超えてからレイカディア大学（米原校）に入学し、2年間の学生生活を終えました。今、振り返ると、様々な経験や学習体験は、これからの人生を豊かにしてくれたと思っています。もし入学していなかったら、今の自分はずいぶんさみしいことになっていたかもしれません。「仕事も子育ても一段落し、自分の時間を有効に使うために入学した女性」「人生100歳を目指して健康でいたい、後半の人生は仲間をつくり交流の幅を広げたいと入学した男性」と、入学した動機は様々です。健康づくり学科は、他の学科と違い、伝統的に女性陣のパワーに満ち溢れています。決して男性が萎縮しているわけではありません。ちょうどよいバランスで、卒業後の活動が継続しているのは、その団結力のゆえんです。



委員会活動・課題学習の体験とよろこび

レイカディア大学では、学習や学生生活を分担補助する委員会活動を、各自ひとつ受け持ちます。正副学科長、会計の他に文化・体育・情報・地域活動・課題学習担当があります。大学祭やニュースポーツ大会・ホームページ作成・ボランティア活動など、学年を超えた各委員会が分担し、それぞれが主催して完結させます。苦労の中に喜びを味わうこうした体験はたいへん貴重です。

また、レイカディア大学で特筆すべきは、課題学習です。これは、教室での学習とは異なり自分たちで学習テーマを決め、言わば卒業課題として手分けして課題案件を調べ、グループで取り組みます。そして、体験したものを一つの報告書としてまとめ、大学祭で発表するのです。これをまとめ上げる過程で、クラスのチーム力が一層高まり、一人ではできないことでも、仲間の力で実践でき、これが自信となり、喜びにつながります。ここでの貴重な体験は、卒業後のボランティア活動にもつながり、地域の方々にもたいへん喜ばれています。



必修講座・選択講座てな一に？

レイカディア大学での講義は、週に1回～2回あります。必修講座と選択講座がありますが、必修講座は全学科1、2年生が一緒に受講します。幅広い分野の初めて触れる学習は、脳への刺激となり、大いに活性化し、講義の最後には、質問時間もあってより理解が深まります。ここでラジオ体操第3を初めて教わり、大学祭の余興寸劇に取り入れ、披露したことも懐かしく思い出されます。

選択講座では、座学と実技がありますが、健康維持・増進に関する多くの最新情報が得られ、生活習慣の見直しにつながりました。ストレッチ体操、サロン活動のワザ、調理実習、介護、遊びの小道具、スポーツ・ゲームなど、これからも地域の仲間と元気に生活していく上でのノウハウやポイントを、専門の先生方から分かりやすく教わることができました。



楽しい交流・懇親会！

レイカディア大学では、学科・学年・草津校・OBなどクラスの枠を超える「城郭探訪会」をはじめとする同好クラブがあります。また、クラス会や学年会・学科交流会・委員会など、こうしたつながりの会は懇親会を開くのが常で、左党の人はもちろんほとんどの出席が得られ、そこでは絆という一生の宝物を授かりました。

卒業後も、クラスメイトとの交流やボランティア活動・ウォーキング・グラウンドゴルフなどを続け、ますます健康長寿を目指し、まさに100歳人生のノウハウ満載の大学です。

なぜ入学したのですか？

入学の動機は、庭木の剪定、野菜果樹栽培、草花など園芸に関心があったからという人が多いのですが、「レイ大先輩からの勧め」「集落の郷づくりのために」「農業経営を任されて」といった地域の活性化をめざして入学する人も少なくありません。なかには、「生前、父から『時間の余裕ができたならレイ大へいくとええわ。レイ大はええぞ』と聞かされていたから」入学した親子二代にわたる人もいます。



授業の魅力は何ですか？

必修講座は、3学科共通で幅広い分野の授業があります。そのため「自分の振り返りや将来について考える参考になった」「ボランティア精神、社会貢献など生き方に方向性を得た」「地域の文化、伝統の再認識になった」「健康長寿ライフを意識するようになった」という感想が寄せられました。視野を広げ、より良く生きるためのヒントがたくさん得られます。

また、選択講座は、園芸に関するもので、剪定、野菜・果樹栽培、花の寄せ植え、盆栽と幅広く基本とコツを学びます。「2年生になると県内各地へ剪定野外実習があるので面白くなる」「剪定は実作業をとまなうので身につく」「野菜・果樹は座学が多いが、経験豊富な仲間から細かなことを教えてもらった」などの声が多くあります。なかには「道具類をもつことで、普段は読まなかった教科書も活用し役立ったのが嬉しい」との声もあります。



松原先生の果物の糖度チェック講座



講師の先生の魅力は？

「北村正隆先生には、剪定の基本とコツ。どう仕上げたいのか、2年後、3年後の姿を考えてバランスよく仕上げること」「松原治夫先生には、野菜や果樹栽培に熱心に取り組むことで若返りと元気がもらえること」「大辻敏雄先生には、『育てる心』と盆栽の魅力を学んだ」という数々の卒業生のコメントは貴重です。そして何より嬉しいのは、講師陣のどの先生からも園芸を愛する気持ちが伝わってくることです。

課題学習・現地研修・地域活動の魅力は？

授業や活動についての感想として共通していたのは、「興味深く学習でき、毎月楽しみであった」「仲間意識が自分を高めてくれた。周りにこんな仲間がいたのか。自分は井の中の蛙であった」という、感動と喜び、そして楽しい仲間ができたことへの感謝の内容でした。

初めはあまり積極的でなくても、「地域の人から感謝され、喜んでもらえる存在」や「地域ならではの取組」に気付き、仲間と一緒に苦労し最後までやり遂げることで達成感・連帯感そして仲間意識が育まれます。また、課題学習で取り組んだ寺院や施設などを卒業後もそのまま活躍の場とするグループも少なくありません。県内各地で活躍中です！



身近にある魅力に気づきます！

園芸について学ぶと、散歩や旅行をしていても、手入れの行き届いた庭、畑の野菜に思わず足をとめて見入るようになったり、また近くの山をハイキングすると何の木だろうかと気になります。整備された生垣を見るとその縄の結び方にも視線を向けるようになります。これまで見逃していた身近な魅力に気づくようになるのです。近所に気になる果樹を育てている家があれば、レイ大園芸学科卒の人かもしれない！

レイカディア大学米原校の先生に聞きました

園芸学科 講師 北村 正隆先生に聞く

アメリカで和風庭園の作庭を終えて帰国されたところへ話を聞きに行きました。

「レイカディア大学（以下「レイ大」）では日本庭園を鑑賞する講座があり、庭園美から和の精神を理解します。しかも、恐れ多くも文化財としての価値ある庭園の樹木の剪定をします。ところが、レイ大生は素直な人ばかりで、初心の横並びで剪定を始めるので無茶をしないし、仕上がりは上々です。

レイ大生を見ていると学ぶ意欲を感じます。60歳以上だから入学できる機会を得て、学べる良さ、人とのつきあいの良さを感じ取り、これが生活の上で有意義であると、理解することがリタイア後の人生

を送る上で大切です。

体を動かしてボランティアに参加して知り合った人とのつながりは一生の付き合いになり、自分を生き生きとしてくれます。その点が入学してみないと分からないのが、辛いところですね」



【サザンカがすっきりと仕上がりました】

健康づくり学科 講師 多胡 陽介先生に聞く

健康と運動（理論）担当の
聖泉大学准教授。

健康づくり学科を目指している方
に対するメッセージです。



健康づくりは、人生をより良く生きるための永遠のテーマだと思います。また、滋賀県では“健康しが”を進めており、地域から求められる健康づくりの需要もますます高くなっています。

レイカディア大学健康づくり学科の皆さんは、とても仲良く、楽しく、前向きに活動しています。

ぜひレイカディア大学に入学して、様々な魅力あふれる授業を通じ、積極的な学びや実践を行い、自身の健康づくりと地域の健康づくりに貢献していきましょう。



北近江文化学科「城郭探訪」 講師 中井 均先生に聞く

北近江文化学科には「城郭探訪」という科目があります。この科目の講師である中井均先生（滋賀県立大学名誉教授）に話を聞きました。――城の魅力について

お教えください――

「城からその地域の歴史や特徴が分かるのが魅力です。例えば、甲賀にある全国的にも珍しい30～50m四方の城郭群や、また、彦根城の大きな堀切や石垣を配した縄張りなどを見るとその時代の緊張感や勢力関係が分かってきます」

――滋賀県の城についてお教えください――

「滋賀県は、戦国時代・織田豊臣時代・政治が安定した江戸時代を代表する魅力的な城がそろっています。小谷城は、下剋上の戦国時代に実力で京極氏にとってかわった浅井氏の築いた城で、実際に戦闘



があった城として興味のある城です。また、安土城は全国で初めて石垣を設けた城で、織田信長が自分の存在を全国的にアピールした城でもあります。そして、彦根城は軍事的に緊張関係にあった時代に実践モードの縄張りが行われ、幕府が各地の大名に命じて天下普請で作られた城です。ふたつの大きな堀切・登り石垣といった魅力的な見どころでいっぱいです」

――レイカディア大学に入ろうと

思っている方に一言、お声がけをください――

「仲間を見つけ、人づきあいを楽しんでください。また、近江ならではの3つの時代の代表的な城を、フィールドワーク・現地で学ぶ楽しさ、新しいものを見つける楽しさを共有したいと思います。私はその案内人として、城や歴史を見る視点を紹介しますので、城の魅力を再発見してください。

魅力的な城がそろっている北近江ならではのワクワク感を私と一緒に楽しんでみませんか」

卒業後も在校生のサポート

校外実習・交流行事・在学生への応援活動など

米原校サポートの会は発足 9 年目を迎え現在会員（卒業生）約 120 名。会員期間は卒業後 3 年間。“在学生をささえ、交流行事でつながり、共にたのしむ”方針のもとに、在校生の現地実習サポート、学年を超えた交流行事の企画、HP 作成やパワーポイントの講習会、学生募集 PR 活動などを実施しています。

第 9 期サポートの会の活動は、今までの同学年同学科生が中心であった交流を、学年を超え、学科を超えて、タテとヨコに更に広げ拡充しようとしています。米原校の魅力を一層深化しようとしている第 9 期米原校サポートの会の活動に、ご注目ください。直近では、次の活動が予定され、どの学科卒でも参加可能。

- ・学生募集プロジェクト
 - ・園芸学科部会（びわこ地球市民の森）
 - ・北近江文化学科部会
（近江文化ぶらぶら探訪シリーズ）、
 - ・健康づくり学科部会（健康ウォーキング）
- ※何れも詳細は HP で確認お願いします。

新たな仲間と学びを共に

レイカディア大学米原校の 3 学科の魅力もさることながら、ご入学を心からおすすめする最大の理由は、次の事実にあります。

直近レイカディア大学米原校卒業生のアンケート結果（71 回答）に、大多数の卒業生の率直な結論が示されています。レイカディア大学を最も高く評価した点は、48%が「新しい仲間との出会い」（第 1 位）、22%が「視野が広がった」（第 2 位）。合わせて 70%にもなる数字データが最大の理由です。

余談ながら、よく知られているガンジー名言「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。」があります。どの学科であれ学び始めると学びの奥の深さと学ぶ面白さを実感されて、“永遠に生きたい”と思われるのではないのでしょうか。



取材レポート 「米原校サポートの会」総会



米原学びあいステーション大ホールを会場に、4 月 8 日（木）午後 1 時から米原校サポートの会の総会が開催され、第 8 期活動報告および第 9 期活動計画、さらに第 9 期役員と体制が決議された。印象的だったのは、まず 50 頁に及ぶ議案書が示す多彩な活動。そして大学事務局担当者の挨拶「レイカディア大学はサポートの会の活動支援なしには実質的な運営は考えられません」とサポートの会活動への強



い期待を表明されたこと。

令和 3 年度は第 9 期サポートの会が始動する。大学当局、在校生そして卒業生のサポートの会の三位一体の活動如何（いかん）がレイカディア大学の価値と歴史を創っていくのだろう。心配無用！卒業されたばかりの 41 期生（写真下）が米原校サポートの会に入会されその紹介があった。41 期生は他期生とは異なる。コロナ禍の休校時期を乗り越え、課題学習・文化祭もこなし、卒業した面々である。コロナ後のレイカディア大学サポート活動にとって大きな力になるに違いない。（取材 H. K.）



レイカディア大学だより米原校 2021 年 5 月 20 日第 20 号

発行：滋賀県レイカディア大学（☎ 0749-52-5110）
米原校サポートの会（広報・情報室）

- 米原市下多良 2-137
（県立文化産業交流会館内）
- 米原校サポートの会ホームページ：
<http://lacamaibara.com/support/index.html>



《編集後記》 この 20 号は、コロナ禍で昨年の学生募集中止により一般向けに配布できなかった 18 号特集号を令和 3 年版に改定したものだ。コロナ恨めしの感は今も残るが、園芸学科卒の筆者は、園芸の楽しみがコロナ禍中の支えとなっている。健康づくり学科卒の仲間は一日一万歩の散歩を軽くこなす。北近江文化卒の仲間は、卒業後に紙芝居づくりに興味を抱き始めた。With コロナ時代は、学びと絆の大切さに気づかせてくれている。それは暗くなってから見える蠟燭の光のようだ。（H.K.）